

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和7年度）
研究開発課題名	薬用植物のオリジナル栽培技術および新たな品質評価技術の実用化に基づく「薬用植物地域エコシステム」の提案
代表機関名	熊本大学
研究開発代表者名	三隅 将吾

総合評価：優れている

【評価コメント】

本研究は、国産生薬原料の安定供給体制の構築を目的として、ミシマサイコ、カンゾウ、シナニッケイを対象に安定・高付加価値栽培技術の開発を進め、実装化可能な技術を確立した点が評価できる。また、農薬を使わない線虫防除法の開発は、環境負荷低減型農業技術として実装化されていくことを期待する。

遺伝子解析を通じた高品質系統の選抜や生物活性を指標とした機能的品質評価は、生薬の品質確保の手法として意義がある。今後は、品質選抜の現場や生薬製剤等の医薬品製造現場における品質管理・製造工程へ組み込み、実装化に進むことが期待されるが、実装化を着実に進めるための運用方法や適用範囲を明確化されることを望む。そのためにも、学会発表や論文公表もしくは薬用植物栽培従事者へのコミュニケーションをとること等を通じて積極的に情報発信を行い、幅広い関係者からの意見を収集・反映していくことを望む。

以上